

ナイチンゲール研究

第 9 号

JOURNAL OF
FLORENCE NIGHTINGALE
STUDIES

Number 9, March 2003

2003年3月

Society for
Florence Nightingale Studies

ナイチンゲール研究学会

ナイチンゲールにおける看護学教育の源流
— 『カイゼルスウェルト学園によせて』
より—

山岸仁美、阿部恵子、寺島久美、
三宅玉恵（宮崎県立看護大学）

【はじめに】

『カイゼルスウェルト学園によせて』は、F. ナイチンゲールが2週間の学園見学の直後、学園創始者であるフリードナー牧師からの要請によって、ドイツからの帰国の途中に送った報告書である。ナイチンゲールは、生きる道を模索し続けた20代の後半には強度のうつ状態にあったといわれる。そして、30代に入ってもまもなく、念願のカイゼルスウェルト学園の見学が実現した。ナイチンゲールにとってこの見学体験は、その後の看護活動の出発点であり、報告書は、執筆活動の出発点とも言われている。

山本¹⁾は、この著作を「初めての看護実践の見学報告書」と位置づけ、その2年後の彼女自身の実践報告書である『病院監督から貴婦人委員会への季刊報告』との2つの著述から、ナイチンゲールの看護技術に関する像とその経時変化を分析し、看護技術論の形成過程を明らかにした。

筆者らは、ナイチンゲール看護論を基盤とした看護基礎教育に携わっている。その立場から『カイゼルスウェルト学園によせて』を読むと、ナイチンゲールは、そこで行われている看護実践と同時に、その看護実践を行う看護婦がどのように育てられているかという看護教育の観点から学園の様子を見ていることが伝わってくる。これはナイチンゲールが学園を「ディーコネスの実際の訓練のための学園」と題目のなかで位置づけていることから理解できる。

そこで、本報告書を「初めての看護教育の見学報告書」と捉え、看護学教育の観点からナイチンゲールの認識をたどり、看護学教育についての本質的理解を深めたいと考えて本研究に着手した。

【目的】

『カイゼルスウェルト学園によせて』より看護学

教育に関わると思われる論理構造を明らかにし、ナイチンゲールにおける看護学教育の源流を探る。

【用語の概念的定義】

本研究における看護学教育の概念を次のように定義する。

＜看護とは、対象の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである＞とく教育とは、人間をつくりかえることを目的として与えられるべきである＞を基盤にすえて、看護実践能力と看護学を発展させる能力を兼ね備え、自己評価しながら学び続ける看護専門職者を育成すること。

【対象】

『カイゼルスウェルト学園によせて』1851年（ナイチンゲール著作集第1巻、現代社）

【方法】

1. 共同研究者が各々論文を読み、看護学教育に関わると思われる記述を選ぶ。
2. 選び出した根拠を全員で話し合いながら、論理を取り出すうえで重要と思われた記述をカードに記す。
3. 各カードについて、看護学教育に関わると思われる意味内容を取り出す。
4. 各カードの意味内容の論理的なつながりを検討し、構造図に表す。
5. 以上をもとに、ナイチンゲールにおける看護学教育の源流について考察する。

【結果および考察】

1. 抽出したカード
看護学教育に関わると思われる記述から、30枚のカードを抽出した。
2. 看護学教育に関する意味内容の構造
各カードの意味内容を読み取りつつ各々の関係性をとらえ、看護学教育に関する論理の構造図として、図1に示した。
各カードの意味内容とその論理的なつながりについて検討した内容を以下に示す。なお、抽

出したカードを実線で囲って示す。実線内の文頭の番号はカードの番号を示し、文末の頁は著作集第1巻に書かれていた頁を示す。

1) 序章から読み取ったナイチンゲールの人間観・教育観

- (1) 「われに汝の道を教え給え」とは詩編におけるダビデの永遠の叫びである。神の道を見てそれを模倣しつつ仕事をするのは唯一の真の知恵である。(p13)
- (2) 心身ともに病気がない女性ならば誰でも感ずる行動-有益な行動-へのあの渴望をどうしたらよいのであろうか。それを神はそういう人々の中に植え込まれておられたのである。(p7)
- (3) 神は女性が従う道を用意しないでは、女性のこころの中に衝動を決してそなえなかったのがわかるであろう。(p9)

(1) の内容は、序章の最終段落に記述されていたものである。「汝の道を教え給え」という紀元前1000年のダビデ王の言葉が引用されている。ここにある「汝の道」や「神の道を見て」「女性が従う道」という表現からは、ナイチンゲールが人間の生き方についての大きな問いを持って学園を見学したことが推測できる。

そして、「-有益な行動-へのあの渴望をどうしたらよいのであろうか」「女性のこころの中に衝動を」という表現からは、この見学が実現する以前のナイチンゲールが「我、どのように生きるべきか」という長く苦しい自問自答の時を生きることが思い浮かび、苦悩の体験から湧き出る強い感情として読み手に迫ってくる。

次いで、「女性ならば誰でも」という表現からは、その問いがナイチンゲールの個人的な生き方についての苦悩を超え、女性一般の生き方についての問いとして伝わってくる。その問いに対し、「模倣しつつ仕事をする」「有益な行動」という表現から、人間には活動の場が必要とされるのだという答えが導き出されている。

さらに、「神はそういう人々の中に植え込まれて」や「道を用意しないでは」という記述からは、人間はもてる力を働かせるようにつくられているという人間観が示されているととらえられる。

ナイチンゲールが人間は本来どのように生きるようにつくられているか、という根源的で本質的

な問いを持って、学園での人々の活動をつぶさに観察したことがわかる。

- (4) 「女性は悲哀を軽くする特別なやさしさをもっていて、女性の言葉は男性のそれよりも人々のこころを動かす」(p8)
- (5) なんと多くの善良な女性達が、特に夫を愛しているといったわけでもないのに、ごく自然な目的のために、つまり自分の活動の場を見出すという目的のために結婚してきたことであろうか。また、なんと多くの女性たちが、健康を害しているとか特別することがないとかいうことだけのために苦しんでいることであろうか。(p5)
- (6) 中流階級では、自分が父や兄弟にわずらわしい存在になっていると感じ、夫を見つけることもなく、また婦人家庭教師になる教育も受けてははず、途方にくれている女性がなんと大勢いることか。(p6)

ここでは、女性の能力は発揮されているかというナイチンゲールの問いが投げかけられている。キリスト教のごく初期から、教会の召使としての婦人執事が存在したこと、そして、世紀を超え国を超え、女性が活動していた事実を述べた後に、

(4) のルッターの言葉を引用して、本来備わっている女性の特質を示し、その能力が発揮されていたとナイチンゲールは位置づけている。(5)

(6) は、ナイチンゲールの目に映る19世紀の女性の生きている様子についての記述である。これらの内容からは、19世紀の女性が、家族や社会の中でもてる力を十分発揮できずに生きていること、そしてその女性たちが途方に暮れ、何もすることがないことに苦しんでいることへのナイチンゲールの嘆きが伝わってくる。これらの記述からは、もてる力を発揮できずに生きている女性の状態を、不健康であると見てとるナイチンゲールの人間観を読み取ることができる。

- (7) 人間はジャンプでもしないかぎり両足を同時に前に出したりはできないのと同じように、これは知性の足だけが前に進んできているのであって、実践の足は後ろに残ったままの状態なのである。その意味で女性は斜めに立っている現状なのである。(p3)
- (8) 18世紀の女性たちは、たぶん、19世紀の教養豊かな女性たちに比べて、理論と実践との釣り合いがとれていたゆえに幸福であったであら

う。(p4)

(9) 19世紀の女性は多くのことを行おうと望むが、どう行ったらよいかを知らない有様であるのに、18世紀の女性は少なくとも自分ができると思われる<こと>を行うことを望んできたからなのである。(p4)

(10) 「私たちがたんに知っていることでなく、実際に行っていることが、私たちの王国にほかならない」。そして女性は今までのところその王国をみつけない、とおそらく感じているであろう。(p4)

ナイチンゲールは、19世紀の女性がなぜ能力を発揮できずにいるのか、‘理論と実践との釣り合い’という視点をもって18世紀の女性と比較し、19世紀の女性は、蓄えた知性を実践に活かすべしを知らないが故に苦しんでいると指摘している。そして、知識を実践に活かすためにはどうすればいいのかと、以下のように考察をすすめている。

(11) 理論を捨てればよいのであろうか。断じてそうではない。私達は無知であってはよりよく働くことはできない。(p4)

(12) ダビデが真に願ったことは知識よりむしろ「知恵」が増すことであった。というのは、知恵こそ知識を現実生に生かす応用であるからである。(p4)

(13) なぜその制度が広がり、さらに栄えなかったのだろう。・・すなわち訓育の土壌、つまりディーコネスのための予備的な学校が存在しなかったためである。その結果、その聖務に適任である資格を得ることは、いわば偶然なものであった。(p9)

その結果、理論と実践の釣り合いをとりつつその能力を育む‘訓育の土壌’、つまり教育の必要性へとつながっている。そして、知識(理論)を現実に活かすこと(実践)を可能にする知恵の重要性を示している。これより、知識を実践に活かす知恵として働かせられるように育てていくというナイチンゲールの教育観を読み取ることができる。

以上より、序章において、<神の道に近づくべく、自身のもてる力を働かせるよう人間はつくられている>というナイチンゲールの人間観と、<そのような能力をもつ人間が知識(理論)を知恵として働かせて実践に活かせるように育てよう>とい

うナイチンゲールの教育観が見えてくる。

現在の看護学教育にひきつけて考えると、学生の認識と行動の両面に着目して、そのつながりを見つけながら修得過程を歩めるよう教育することの必然性へとつながる。また、その修得過程においては、認識の発展と行動の発展には当然アンバランスな状況が生じるのであるから、釣り合いがとれているか?という視点をもって関わることの重要性へとつなげることができる。

2) 学園での実践についての記述から読み取ったナイチンゲールの教育観

学園での具体的な内容の分析でまず注目したのが、「この施設をひとつの病院としてではなく、ディーコネスのための訓練学校として述べているのである(p22)」というナイチンゲールの記述である。この記述から、ディーコネスのための訓練学校としての内容いかに訓練されながらディーコネスたちが育っていったのか—それを明らかにしようというナイチンゲールの思いを研究者間で確認した。その内容を図1の中央の2つの枠内に、フリードナー牧師の実践と、フリードナー牧師に育てられたディーコネスたちの実践として示した。

訓育する側の人間が、どのような認識をもってどのような実践を行っているのか、その結果どのような実践者が育っているのか、ナイチンゲールが注目した内容を以下に述べる。

①フリードナー牧師の実践

(14) 神の王国が地上に広まることについて、彼女たちに関心をもってもらいたいというのが牧師の最大の目的のように考えられる。(p24)

ここからは、ナイチンゲールがフリードナー牧師の実践から彼の目的意識を読み取っていることがわかる。ここで、「神の王国が地上に広まる」とは何を指しているのかを検討したところ、「一、病院とディーコネスの母の家」の冒頭で、ナイチンゲールが「病院とは患者が多くは生命力を回復し、大概の場合健康が増進して、自分の家族たちのもとへ帰るための学習の場であるべきであるのに、そうではなく・・(p14)」という実態を述べていることに注目した。この内容と「(10) 私

たちがたんに知っていることでなく、実際に行っていることが、私たちの王国にほかならない（以下略）（p4）」という序章の記述を重ねて考えると、「神の王国」とは、例えば病院においては病人にとっての学習の場を創り出すようなことを示しているのではないかと考えられる。そのような場を実現していけるような看護婦たちを育てること、そのための関心を看護婦たちに持ってもらうことをフリードナー牧師が目指している、とナイチンゲールはとらえていたことがわかる。

(15) ひと知れずに人々に影響する振舞いが身につくような、また時宜を得た言葉がふと口について出るような看護婦になるように教育し実力をつけること。（p15）

(16) 看護婦に対しほかに例を見ない平易さで教えることと、彼らに絶えず注意深く見守ることによって、種々の危険から看護婦と患者とを共に守っている。（p16）

(15)にあるように、病人のところに働きかけ安寧をもたらすような看護婦の姿を、この当時のナイチンゲールは具体的な目標像として描いていたと思われる。

そして、「精神的なことまで安心して任せられるほどの婦人たちをどのように守り育ててきたのであろうか（p15）」と、フリードナー牧師の教育のありようをみて、第一に彼の克己心であるとし、次にあげた内容が（16）である。フリードナー牧師が実践をとおして修練する場を保証していることにナイチンゲールは注目している。指導者がたとえ直接関わらない状況においても、注意深く見守ることで患者と看護婦両者の安全を守りながら実践させるという土台を創り出しているということであり、これは今日の実習指導においても同じことが求められ、看護学教育における臨地実習指導の原則であることが再確認できる。

次いで、例を見ない平易さで教えることの具体的な内容として以下のように述べられている。

(17) 毎週・講義のまえに看護婦は・彼女の担当の病棟で起こった事柄、また仕事のすすめ方についての彼の忠告をどのように活かしたかについて報告することになっている。（p16）

ナイチンゲールは、「忠告をどのように活か

したかを報告する」ことに注目していることがわかる。ここから、看護婦が自身の目標像（あるべき姿）に照らして実践することを積み重ね、自己評価能力を高めていくことの重要性をナイチンゲールは示しているのとらえられる。

(18) それから彼はたとえば患者が心中苦しんでいるとか、患者が自分だけが正しいと思っているとかの、病棟で起こりやすい事例を看護婦たちに示し、そうした場合、看護婦はどうしたらよいかを尋ね、彼女たちの答えに注意深く耳を傾け、その答えを訂正するのである。（p16）

(19) 彼の教育 [instructions] は形式的な講義ではなく、質問する、答えるというかたちをとっている。（p16）

(20) 彼は告解師のような語調をとらずに、看護婦たちに患者のところにどのようなにはたらきかけるか、また緊急の場合どのような処置をとるべきかを話し、彼女たちはいつでも彼の助言を求めて彼に会うことができる。（p16）

フリードナー牧師は、病棟でおこりやすい事例をあげて、対象の状態を事実で示しながら看護の方向性を描くまでの思考のプロセスを看護婦たちにたどらせることで、看護婦たちに応用できるような思考を育てているということが読み取れる。つまり、牧師の考える看護の方向性と、看護婦たちが考える看護の方向性とを具体的な事実をもとに突き合わせながら、看護としていけるように育てていることである。ここから、看護における指導の原則—看護者の認識に問いを抱かせ、答えを導き出すプロセスを通して、対象のこころと生命を守るためにどのように関わるべきかという実践への関心を高め、自己評価を促しながら学びの過程が進むようにする—が含まれていることが読み取れる。その事実をとらえたナイチンゲールの認識には、まだ確たるものとしてではないにせよ、看護教育における指導過程の枠組みが形成されていたのではないだろうか。

②フリードナーに育てられたディーコネスたちの実践

(21) 彼女たちにとってはそれぞれに神の国が近づいてくるという実感があり、彼女たちはそのことに関して、聞きとることのできるすべてに大変な興味をもって見つめているのである。（p24）

先の目的と方法をもって訓育された実践者がどのように育っているのか、その修得段階は？という問いをもってナイチンゲールはディーコネスたちの実践を見て取っていると考えられる。そして、ディーコネスたちが神の王国に近づいていると自己評価している、とナイチンゲールは読み取っているのである。

つまり、訓育する側と訓育される側の両者が目標を共有しながら修練の場が展開されることの重要性をここから取り出すことができる。

次に、フリードナーの「訓育」を受けたディーコネスの実践についてナイチンゲールが見て取った内容を、小児病棟、孤児院・一般家庭、幼児学校と、小児を対象とした3つの場について述べる。

(22) これらの女性たちが自分の患者たちのところに、特に子供たちのところに、教化を与える機会を捉えようといかにところを砕いているか。(p16)

(23) ・・ひとりの少年の引出しからパンがひと切れ盗まれ・・シスターは告白するように求めた。・・告白しようとしなかった。誠実な年若い看護士が短い説教を・・ウイリアムは告白し、・・折った。・・いつものように快活に・・彼が悔いていると思っていたので・・自分の犯した過ちを忘れないための方法・・彼は大きい方を返すことをその週いっぱい続けた・・その後、シスターはこのこと(罰)を他の子供に秘密にしたことは間違っていたと考えるようになった。(p17~18)

シスターが対象のところに働きかけていることにナイチンゲールは注目し、その具体的な場面を記述している。シスターがどの事実注目して、どのように感じ判断に至ったのか、そして、その子供にどのような変化が起こったのか、そのプロセスが具体的に描けるよう克明に記述している。さらに、この一連の出来事をその後シスターがどのように振り返っていたのか、自己評価の内容まで記述している。ここから、ナイチンゲールの認識には、実践をみてとる枠組みがすでに形成されていたのではないかと考えられる。

(24) 小児の病棟のシスターは、子供たちに書物を読んで聞かせるといことはほとんどない。というのは子供たちに《語り聞かせる》ことは、聞く子供たちに真実と思えるのだが、書物から

《読んで聞かせ》られることは、子供たちにとって、その書物の中のこととしか思えないからである。・・感情の伴わない挿話は誰のころにも入っていかないからである。(p20~21)

(25) 熟達した教区ディーコネスが訪問を行っているのをみるのはすばらしい体験・・彼女は子供たちにちょっとした手仕事や編物やヘリ地製の靴づくりを教える・・ひとをひきつける誠意のあるやり方・・両親たちが彼女を信頼しはじめ、ついには掃除や料理や家を整頓するすべを教えて下さいと《頼み》に来る。(p30~31)

(26) 子供たちの世話を親身になってし、一緒に眠り、一緒に食事をして、家庭生活の中で彼女たちを教えている。(p12)

(27) ディーコネスと一緒に住み、まさに彼女の子供として生活している。(p32)

(28) ここの女教師が子供たちのあきることのない遊び仲間でありゲームの相手であることを喜んでつけ加えておく必要がある。(p33)

成長発達の途上にある子供たちが、体の健康の回復にのみ注目されるのではなく、ころも育まれるよう、育む者がころを砕くことの重要性をナイチンゲールは示している。そして、子供たちの生きる力を育むためには、その土台となる24時間の生活の中で、生活する力を1つ1つ実地に育むこと、そしてその子供たちの変化をみて母親の生活する力へと連鎖していく様を浮き彫りにしている。また育む者がその子の発達段階を読み取れなければ、相手が夢中になるような遊び仲間にはなれないこと、そして、遊びを通して子供たちが成長することの大切さをナイチンゲールは重ねて述べている。

このようにナイチンゲールは報告書の中で、子供たちへの関わりについて多く述べていた。ディーコネスたちの関わりを通して、これから健康を担っていく人間へと成長する子供たちの学習の場としても、学園を注目していたのではないだろうか。

ここから、ナイチンゲールの認識には、〈24時間の生活の中で人間は人間によって育てられ、人間として成長していく〉という教育の本質が形成されており、学園でのどのような現象をとらえる際にもその認識が貫かれているといえるのではないだろうか。

3) ナイチンゲールの活動への意思の高まり

(29) ときは熟している。・・主に「私は親愛なる英国の使女たちを呼んだのだが、彼女たちは答えなかった。私は彼女たちの扉の前に立ち、ノックしたが彼女たちは開けようとしなかった」といわれることのないようにしようではないか。

(p34)

(30) 小さな芽から森林樹になる過程は緩慢すぎて、その芽がいつ、どのようにして大きくなったのかは誰にもわからない。フリードナー牧師は小屋の二つのベッドから始めたのであって、空中楼阁のような幻想から始めたのではない。

(p13)

(29) は、報告書の最後に記述されていた内容である。「ときは熟している」という表現からは、この見学体験が単なる見学では終わらず、ナイチンゲールにとってその後の活動への意思をさらに強くする強烈な体験となったことが読み取れる。ナイチンゲールは、見学前の20代後半の不安定なとき、この学園の年報を丹念に読むことで心の安定を得たといわれている。書類を読みつつ想像していた学園で、女性が生き生きと働き、丁寧な心のこもった教育が行われている様子を目にしたナイチンゲールの感情は大きく膨らみ、活動への意思を確固たるものにしたことが伺える。この記述からは、英国の女性一般に向けてのメッセージと同時に、ナイチンゲールが自分の生きる道を探し得たことを、他者に伝える表現として伝わってくる。

(30) は序章の終わりの記述である。学園の起源と発展の様子を知ったナイチンゲールは、遠大な計画と資金によって設立される他の施設と比較して、フリードナー牧師の活動は小さなことから始まり、やがて世界各地に広がっている事実に着目していることがわかる。ナイチンゲールは、ここから、始めは小さく、そして、働く人々を育てつつ広げていくという活動の方法についての示唆を得たのではないかと思われる。

訓育される側にも修得過程があるように、訓育する側にも修得過程が存在する。そのプロセスは、遅々とした歩みである。しかし、そのプロセスの小さな変化に注目する視を養いつつ、その時々の実践を自己評価し、ありたい姿に向かって進むことが、訓育の土壌を創りだす源流であるというナイチンゲールのメッセージを読み取れるのではないだろうか。

【おわりに】

今回、教育する者の人間観がその教育観を大きく左右するのだということを、あらためて実感した。人間を対象とする看護学教育においては、教育する側がどのような人間観・教育観をもっているのか、自問自答することの重要性をナイチンゲールは示してくれている。

【引用文献】

- 1) 山本利江：F.ナイチンゲールにおける看護技術論の形成過程に関する研究，千葉看護学会会誌3巻2号，84-90，1997.

29) ときは熱している。…主に「私は親愛なる英国の使女たちを呼んだのだが、彼女たちは答えなかった。私は彼女たちの扉の前に立ち、ノックしたが彼女たちは開けようとしなかった」といわれることのないようにしようではないか。<34>

30) 小さな芽から森林樹になる過程は緩慢すぎて、その芽がいつ、どのようにして大きくなったかは誰にもわからない。フリードナー牧師は小屋の二つのベッドから始めたのであって、空中楼閣のような幻想から始めたのではない。<13>



図1. 『カイゼルスウェルト学園によせて』にみる看護学教育の論理構造 (文頭の数値はカードの番号、文末の数値は頁数を示す)